

平成 27 年 10 月 17 日(土) 先端加速器科学技術推進シンポジウム 2015 in 東北
「国際リニアコライダー(ILC)によってもたらされるもの」

日時＝平成 27 年 10 月 17 日(土)

会場＝奥州市文化会館 (Z ホール) 大ホール

主宰：いわて ILC 加速器科学推進会議／岩手県国際リニアコライダー推進協議会／東北 ILC 推進協議会／(一社)国際経済政策調査会／(一社)先端加速器科学技術推進協議会(AAA)

後援：高エネルギー加速器研究機構(KEK)／岩手県／岩手県教育委員会／奥州市／奥州市教育委員会／金ケ崎町／金ケ崎町教育委員会／奥州商工会議所／岩手日報社／岩手日日新聞社／河北新報社／胆江日日新聞社

プログラム

『加速器で解き明かす 4 つの謎』

高エネルギー加速器研究機構 機構長 山内正則

『 I L C 計画の現状と将来に向けて』

先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト部会長 山下了

『 I L C が築く豊かな未来』

日本創成会議 座長 増田寛也

<報告>

平成 27 年 10 月 17 日(土)に先端加速器科学技術推進シンポジウム 2015 in 東北「国際リニアコライダー(ILC)によってもたらされるもの」を開催した。

本シンポジウムは、ILC が目指す最先端の研究とその最新状況に加え、ILC という国際プロジェクト実現による地方都市の創造について理解を深めることを目的に、山内正則 KEK 機構長、山下了東京大学素粒子物理国際研究センター准教授および先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト研究部会長、増田寛也日本創成会議議長の 3 名が講演を行った。地域の中高生や市民など約 800 人が参加。ILC の建設実現に期待を寄せた。

オープニングには、認定こども園日高なつ星・日高さくら木の園児約 30 名が、来年岩手県で開催される第 71 回国民体育大会の応援ソングである「いわて国体ダンス」披露した。園児たちはパフォーマンスの最後に「みんなの希望 I L C !」と元気よく声を合わせ、会場は大きな拍手に包まれた。

山内氏は、「加速器で解き明かす 4 つの謎」と題した講演で、今後解き明かすべき素粒子物理学が挑む宇宙の謎として「質量の起源」「暗黒物質の正体」「宇宙から消えた反物質」「加速する宇宙膨張」の 4 つを挙げて、それぞれの研究の重要性を解説した。また、日本が素粒子物理学の分野で世界をリードしている素粒子研究の現状を解説するとともに、研究から生まれる最先端技術に言及し「科学の流れと技術の流れを、将来のリニアコライダーにつなげたい」と述べた。

続いて山下氏が「ILC 計画の現状と将来に向けて」と題して講演。ILC は「建設場所」「目指すもの」「技術」がすでにそろっている計画であると述べたうえで、現在日本政府における検討が進められていることや、関係各国の政府間の議論等が一部開始されている状況について解説した。これまで日本が主導して国際的枠組みをつくった経験は無く、ILC の実現については、「今までなかったことをやるもの」だとして、挑戦することの意義を強調した。また、ILC は実現までに 10 年以上を要するため「ILC を次世代の子供たちのためにどのように使うか考えて欲しい」と呼びかけた。

増田氏は「ILCが築く豊かな未来」の中で、現在「地方創生」が議論されてる要因について、地域を維持できないほど人口が減少していることを挙げ、現状打破の必要性を強調した。そのためには、次世代・次々世代を見据えて、安心して生活し、結婚し家庭を築くことができる地域作りが必要であると述べた。また、地方創生の総合戦略として、東北地方はILCという可能性を持っており、全国でもこのような可能性があるのはこの地域のみであることを指摘し、必要な準備について考えてもらいたいと呼びかけた。